



Japan
Food
Research
Laboratories

試験報告書

第 208092266-001 号
2008年(平成20年)11月07日

依頼者 日鉱工業株式会社
株式会社 マッキンリー
宝永電機株式会社
ミツヤテック株式会社

検体 CELA水 pH6.5 50ppm

表題 ウイルス不活化試験 (ノロウイルス)

2008年(平成20年)09月22日当センターに提出された
上記検体について試験した結果は次のとおりです。

財団法人

日本食品分析センター

東京本部 〒151-0062 東京都渋谷区元代々木町52番1号
大阪支所 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町3番1号
名古屋支所 〒460-0011 名古屋市中区大須4丁目5番13号
九州支所 〒812-0034 福岡市博多区下呉服町1番12号
多摩研究所 〒206-0025 東京都多摩市永山6丁目11番10号
千歳研究所 〒066-0052 北海道千歳市文京2丁目3番
彩都研究所 〒567-0085 大阪府茨木市彩都あさぎ7丁目4番41号

表-1 作用液のウイルス感染価測定結果

試験 ウイルス	対 象	log TCID ₅₀ /ml ^{*1}			
		開始時	30秒後	1分後	5分後
ネコカリシ ウイルス ^{*2}	検 体	6.8	4.5	3.7	3.0
	対 照	6.8	7.3	6.7	6.8

TCID₅₀: median tissue culture infectious dose, 50 %組織培養感染量

*1 作用液1 ml当たりのTCID₅₀の対数値

*2 ノロウイルスの代替ウイルス

開始時: 作用開始直後の対照のTCID₅₀を測定し, 開始時とした。

対照: 精製水

作用温度: 室温

試験開始30秒で
不活化に成功

6 試験方法

1) 試験ウイルス

Feline calicivirus F-9 ATCC VR-782(ネコカリシウイルス)

2) 使用細胞

CRFK細胞[大日本製薬株式会社]

3) 使用培地

① 細胞増殖培地

イーグルMEM培地「ニッスイ」①[日水製薬株式会社]に牛胎仔血清を10 %加えたものを使用した。

② 細胞維持培地

イーグルMEM培地「ニッスイ」①に牛胎仔血清を2 %加えたものを使用した。

4) ウイルス浮遊液の調製

① 細胞の培養

細胞増殖培地を用い, 使用細胞を組織培養用フラスコ内に単層培養した。

② ウイルスの接種

単層培養後にフラスコ内から細胞増殖培地を除き, 試験ウイルスを接種した。次に, 細胞維持培地を加えて37 °C ± 1 °Cの炭酸ガスインキュベーター(CO₂濃度: 5 %)内で1~5日間培養した。